

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	尼崎市における「防災福祉力」向上プロジェクト			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	関西大学		
	活動 グループ名	近藤誠司研究室	参加学生 等人数	22人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	社会安全学部 安全マネジメント学科		
	責任者氏名	近藤誠司	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	尼崎市難病患者団体連絡協議会		
	代表者氏名	小山昇孝(事務局長)	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	尼崎市は南海トラフ巨大地震等が発生した場合、市域で甚大な被害が発生することが予想されている。また大型台風による高潮災害のリスクも高い地勢にある。そうしたなかにあつて、難病患者・障害児者、高齢者などの要配慮者は、防災対策を促進することに苦慮している。そこで本プロジェクトでは、災害時配慮者との交流を通して、学生が防災と福祉の両分野における学びを深めて、その成果を情報発信する。			
活動内容及び 実績、評価	<p>(活動内容及び実績)</p> <p>【1】 尼崎市難病団体連絡協議会の要配慮者シンポジウム 2015 年から行っている「尼崎市難病団体連絡協議会の要配慮者シンポジウムを、2022 年 11 月 27 日に実施した。イベントタイトルは、「みんなで学ぼう 防災福祉の知恵袋」で、基調講演は、「今こそインクルーシブな社会を ～防災福祉の知恵 17文字で共有しよう～」と題して、防災川柳を詠み込みながらのスピーチとした。 後半のパネルディスカッション(リレートーク)の登壇者は、以下の5団体からであった。 社会福祉法人 福成会あいあい 社会福祉法人 喜楽苑 尼崎市身体障害者連盟福祉協会 尼崎市手をつなぐ育成会 尼崎市難病団体連絡協議会</p> <p>【2】 メディアにおける情報発信 上記、「要配慮者シンポジウム」の件は、事前に FM 尼崎に出演して内容を告知し、さらに事後にも、パーソナリティによって成果報告していただいた。 また、本年度からあらたに、学生が企画・制作・出演する防災動画の制作プロジェクトをスタートした。5～6分サイズのコンテンツで、シリーズの名前は、「防災アイアイ」である。昨年度まで FM 尼崎で毎週放送してきた「ぼうさいアイアイ」と同名にした。ゼミのウェブサイトに、気軽に楽しめるサバイバルクッキングを紹介した動画をアップしている。</p> <p>http://kondoseiji.main.jp/category/aiai-new/ なお、ラジオのアーカイブ http://kondoseiji.main.jp/movie/bousai_aiai/</p>			

(評価)

・想定していた活動成果に対する達成度合い

調整を重ね、コロナ対策を徹底しながら、対面式のシンポジウム(図-1、図-2)が実施できたことの達成感は大きかった。福祉領域においても、高齢者福祉と障害者福祉では、それぞれ状況が異なるが、そうした「違い」や「多様さ」を知ることをふまえて、防災に対する「同じ」思いを共有するという貴重な機会を得ることができたのではないかと思われる。継続性という観点からみても、このような場から学生が学べることは大変意義深い。

登壇者の中から、学生に対して、今後も福祉の現場に足を運んでみるようにと誘いかけをいただいた。そこで、シンポジウムが終わってからも着々と準備を進めていったのだが、こちらはコロナの影響で、年度内の訪問が延期となった。次年度に期待したい。

第25回 尼難連講演交流会 要配慮者災害シンポジウム

手話
要約筆記
あり

みんなで学ぼう 防災福祉の知恵袋

無料・事前申込不要 定員50人

11月27日(日) (会場) 尼崎市立身体障害者福祉会館 大ホール
尼崎市三反田町1-1-1 尼崎市教育・障害福祉センター2F
(アクセス) JR神戸線「立花」駅から徒歩10分
バス停「障害福祉センター」下車

13:30 ~ 16:30 (受付)13:00

災害は、いつ起きるかわかりません。
いざという時に備えるためにも、ふだんから自分に何ができるのか、
そして、みんなが何ができるのか考えることが大切です。
災害時に「誰も取り残さない」地域づくりに向け、みんなで考えてみませんか？

「いまこそインクルーシブな社会を」
～防災福祉の知恵 17文字で共有しよう～

第1部
基調講演
13:40-14:10
講師 関西大学社会安全学部
教授 近藤 誠司 氏

第2部
防災リレー
トーク
14:20-16:20
司会・進行 関西大学社会安全学部 近藤 誠司 氏
パネラー 障害当事者団体、高齢者・障害者団体関係者

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大や自然災害等により開催を延期・中止する場合があります。その場合は、開催日2日前までに、市HPでご案内しますので、ご確認ください。

【問合せ先】 尼崎市保健所 (疾病対策課)
◎ 平日 06-4569-3053 Fax 06-4869-3049
◎ 土・日祝日 090-4905-3127(携帯電話相談) e-mail : amananren@docomo.ne.jp

(主催) 尼崎市難病団体連絡協議会・尼崎市 (後援) 尼崎市社会福祉協議会・尼崎市医師会

図-1 要配慮者シンポジウムのちらし



図-2 要配慮者シンポジウムの登壇者

一方、情報発信プロジェクトに関しては、FMアイアイというローカルメディアの足場を失ってしまったことから、残念ながら、あまり順調とは言えない水準で本年度の取り組みを終わることになった。確かに、防災動画を制作・公開することは出来たのだが(図-2)、尼崎市民のビューワーが確保されたわけではないので、正直に言って手応えがない。自己満足に終わってしまったのではないかと反省している。

情報発信を行うにしても、直接的な関係性が基盤となることが重要である。次年度以降は、サマーセミナーなどの機会も生かしながら、再チャレンジしていきたいと考えている。



図-2 防災動画のサイトページ

・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等

尼崎市難病団体連絡協議会においては、今後も防災シンポジウム等の連携協力ができる手応えを得ていただいている。

また、本年度の取り組みを経て、高齢者福祉部門からあらたな「連携の芽」を見出すことができた。次年度の取り組みにぜひ生かしていきたい。

・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

コロナ禍で、なかなか現場にうかがう機会が限られているなかで、学生は「想像力」によって、いま何をすべきか、それを達成するにはどんな方法があるか、考えをめぐらせてくれるようになってきている。たとえば、ゼミ内の他のプロジェクトでは、別の自治体において、防災や福祉の領域と連携する機会が増えている。そこで、プロジェクト横断で(自治体の境界を越えて)、尼崎市で培った知見を活かす道を探っていくことを検討している。すでに、キャンパスがある大阪府高槻市内の「介護事業者協議会・防災対策部会」と、尼崎市の高齢者福祉施設を架橋する、「防災研修会」を実施することが決まっている。

尼崎市における防災福祉プロジェクト自体は、後輩の世代に受け継がれることになった。課題に対して、「持続的に取り組むことの重要性」をバトンできたことも、大きな成果であると感じている。

(以上)

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。